

水村 容子

東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 准教授

Safe Community における自助－共助の仕組みに関する研究

本研究は、1970年代スウェーデンの一地方自治体で開始され現在では世界各国に普及している Safe Community という認証活動に着目し、その内容、発展の経緯、現状を報告するものである。Safe Community とは、公衆衛生学領域における外傷予防を目的としてはじめられた活動であり、コミュニティ内に暮らすあらゆる年代を対象とした安全・安心のためのまちづくり活動である。本研究では、実際に Safe Community の認証を取得しているスウェーデンの4自治体の推進担当者へのインタビュー調査および我が国において認証取得および申請予定の2自治体の担当者へのインタビュー調査を通じて、その活動の特徴および推進にあたっての今後の課題についての検討を行った。その結果、スウェーデンおよび我が国の自治体においては、様々な安全・安心に関わるプログラムが展開されている一方、具体的な環境改善の事例が少ないこと、さらには継続的な外傷サーベランスの困難さなどの問題点が明らかになった。